### 第3章 CPU

本 CPU(NPPFAXICPUR4FV10)は、ARM 社 Cortex-R4F コアと、ベクタ割り込みコントローラを一体化したサブ システムです。

### Cortex-R4F 機能 3.1

アーキテクチャ\_ : ARMv7-R : 1.6DMIPS/MHz

キャッシュ(命令) : 16KB

キャッシュ(データ<u>)</u>: 16KB

\_\_: **256KB 💥 3.2TCM** 構成 にて補足説明します。 ATCM\_

BTCM\_ \_\_:\_128KB \_: VFPv3-D16 FPU

メモリ保護機能\_ \_: MPU(Memory Protection Unit)

アーキテクチャ詳細、および FPU に関しては、以下の ARM 提供のマニュアルの最新版をご確 補足

『Cortex-R4 および Cortex-R4F テクニカルリファレンス マニュアル』

**『ARM アーキテクチャリファレンスマニュアル』** 

#### 3.2 TCM.構成

ATCMに1waitの192KB、BOTCMに0waitの64KB、B1TCMに0waitの32KBを実装します。

ATCM、BTCMベースアドレスはそれぞれソフトウエアで設定可能です。

ATCM領域の一部にアクセス不可領域が発生します。またBITCM領域にミラー領域が発生します。

ATCM の領域は 256KB 補足 BTCM の領域は 128KB

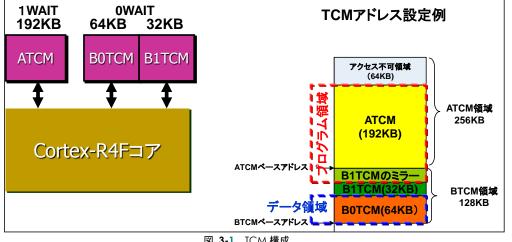


図 3-1 TCM 構成

書式変更	
書式変更	
削除:	
書式変更	
削除:	
書式変更	
書式変更	
書式変更	
削除:	
書式変更	
削除:	
書式変更	
削除: (	
書式変更	
削除: )	
書式変更	
書式変更	
書式変更	
	····
書式変更	
削除: )	
書式変更	
削除:	
書式変更	
書式変更	
削除: .	
書式変更	
書式変更	
削除:	(
書式変更	
削除: 	
書式変更	
書式変更	
書式変更	
削除: .	
書式変更	<u> </u>
書式変更	
書式変更	<u></u>
書式変更	
書式変更	
書式変更	<u> </u>
削除: ,	(
<b>書式変更</b>	
書式変更	(
書式変更	

削除: 1 書式変更

書式変更

# 3.2.1 TCM 使用に関する注意点

- · ご要求の TCM 構成とした場合、ATCM の一部にアクセス不可領域、B1TCM にミラー領域が発生します。
- ・ATCM ベースアドレスは 256KB アライン、BTCM ベースアドレスは 128KB アラインでのレジスタ設定です。 ATCM と BOTCM を連続領域として設定する場合は BTCM ベースアドレスを「ATCM ベースアドレス-128KB」 とする必要があります。
- ・BOTCM/B1TCMの領域設定は BTCM アドレスの最上位ビットを使用します (SLBTCMSB=1)。これより BTCM の下位 64KB 領域が BOTCM 上位 64KB 領域が B1TCM に割り当てられます。JL-086A で命令に ATCM と B1TCM データに BOTCM を割り当てた場合、命令とデータアクセスの衝突によるタイミングのロスが発生しません。
- ・ARM コアの例外ベクタは 0x0000\_0000-0x0000\_001C (ローベクタ) 、または 0xFFFF\_0000-0xFFFF\_001C (ハイベクタ) です。
- ・JL-086A の構成では <u>TCM は</u>例外ベクタを避けて配置すること、<u>FIQ を使用しない</u>こととします。 (IRQ、FIQ 以外にもデバック用割り込みが存在しますが、例外的な割り込みであるため、一般的に高速な割り込み応答は必要とされません。また FIQ は最優先の IRQ を使用することで代替できます。IRQ 割り込みは任意のアドレスにソフト設定可能とです。)
- ・TCM」に例外ベクタを配置した場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

 $_{\text{L}}$ ローベクタ時: ATCM べースアドレスを  $_{\text{L}}$  0x0000 $_{\text{L}}$  00000 とした場合、アラインの制約から ATCM と BTCM の領域が連続しません。

ハイベクタ時: BTCM、領域を 0xFFF2\_0000-0xFFF3\_FFFF、\_ATCM、領域を 0xFFF4\_0000-0xFFFF\_FFFF、と した場合、ATCM、のアクセス 1wait の領域が例外ベクタ領域となります。

システム制御レジスタ・VE bit をセットした場合です。

注 システム制御レジスタについては、『ARM アーキテクチャリファレンスマニュアル』および 『Cortex-R4 および Cortex-R4F テクニカルリファレンス マニュアル』をご確認ください。

# 3.3 割り込み機能

割り込み要因数: 64

割り込み機能詳細については、**第8章\_割り込みコントローラ**をご参照ください。

書式変更		(
書式変更		
削除:,		
書式変更		
削除:,		
書式変更		
書式変更		
書式変更		
削除:,		
書式変更		
削除: (		
削除:)		
書式変更:	フォント	: 太字, (特殊) き
		:(特殊)Century
Gothic	7771	(147)A) Oction y
書式変更: Gothic	フォント	: (特殊) Century
書式変更		
	フナント	
Gothic	7 7 7 T	(147)A) Octrically
書式変更		
削除:,		
書式変更		
書式変更		
書式変更		
書式変更: Gothic	フォント	:(特殊)Century
書式変更		
書式変更:	フォント	: (特殊) Century
Gothic		(4±±4) 0 .
<b>書式変更</b> : Gothic	フォント	: (特殊) Century

**書式変更:** フォント: (日) MS ゴシッ

**書式変更:** フォント : (特殊) Century Gothic

書式変更

書式変更